

2010 年度入学試験 「出題傾向と対策」

国語（一般入試用）

出題の意図やねらい（全体的な傾向など）

漢字の書き取りと読みに加え、文章題を2題（物語的文章と説明的文章）出題します。漢字は小学校で学習しているものです。

文章題では、受験生の皆さんがはじめて目にする文章なので、なるべく文章全体が正確に把握できるよう、手引きとして出題することを心がけています。ですから、入試問題の全てを解き終わった時点で、この文章で書かれていたことがわかった、と思えば、合格に近づいているかもしれません。入試といえども、出題された文章で何かを感じ、何かを得てくれればと思います。

大問題ごとの紹介（単元・レベル・小問数など）

漢字は漢字検定5級程度までのレベルで出題されます。例年、漢字の読みは得点率が高いので、合格のためには確実に正解する必要があります。また、漢字の書き取りでは、訓読みの漢字1字を書き取るものと2字の熟語を書き取るものが出題されます。

文章題は小問が6～8題前後となります。選択する問題から抜き出しや記述などあらゆる解答方法の問題が出題されます。レベルは例年と変わりありません。過去問を解くことで慣れておきましょう。

ポイントとなる問題など

記述を苦手とする受験生が多いかと思えます。記述で答える際は、設問をよく読んで解答のポイントを見極めて下さい。文章全体が理解しやすいように設問が作られています。一方、選択の問題はあらかじめ答が用意されていますが、簡単には見分けられないこともあります。しかも、部分点はありません。慎重に文章と選択肢を見比べなければなりません。

したがって、どのような解答方法であっても、まずは自分なりの答を作り出すことが肝心です。

受験生へのメッセージ

好奇心旺盛でいてください。どのような文章が出題されても、何が書いてあるのだろうと、知ろうとする姿勢が大切です。その知ろうという気持ちがあれば、漢字を調べたり、覚えたりする苦勞もいとわなくなるでしょう。

また、文章の中で大切な所に線を引くときの精度も増してくるはずですよ。